

日時：2024 年 5 月 20 日（月）10：30～11：30

場所：プロトコーポレーション本社（WEB 配信）

登壇者：代表取締役社長 神谷健司

経理・財務部門 執行役員 鈴木毅人

経理財務部財務 河合秀樹・中江理紗

※決算説明会における主な質疑応答の内容です。当該内容については、ご理解頂きやすいよう部分的に加筆・修正しています。

・コマース事業の 2024 年 3 月期実績と 2025 年 3 月期予想の背景について（決算説明資料 p.8）

Q. コマース事業の 2024 年 3 月期実績において、計画対比で営業利益が未達成となった要因を教えてください。
また、2025 年 3 月期予想において、特にチケット事業が保守的である意味合いを教えてください。

A. 2024 年 3 月期実績において、計画対比で営業利益が未達成となった要因については、輸入タイヤ・ホイールの仕入れ・販売を手掛けているオートウェイが主な要因である。デリバティブ評価益や為替差益などが営業外収益であがっているが、円安によって想定レート 130 円に対し 150 円以上という形で仕入れ原価が上がっている。販売価格を少しずつ値上げしているが、円安の影響に追いつかない部分もあり、売上原価の高騰している分を賄えていないため、オートウェイでは計画対比で利益を毀損しているという状況である。2024 年 4 月以降もタイヤ 1 本当たり 20 円から 30 円ほど単価を引き上げているので、少しずつ単価を上げながら円安の影響を吸収できるように単価の切り上げをすすめている。
チケット事業については、2024 年 3 月期はインバウンド需要もあり、海外の方々が商品券を購入され、国内の方々にもお食事券・レジャーチケットなどを想定以上に販売することができた。2025 年 3 月期に入っても順調に伸びているが、予算の計画立案の段階において、インバウンド需要などをどこまで計画に見込むかが難しいところであったので、少し保守的に計画を立てており減収となっている。

・プラットフォーム事業における中古車市場の現状と今後について

Q. メディア事業において、国内の中古車市場は決して悪くないというお話があったが、現状どのように考えているのか教えてください。
また、2025 年 3 月期の中古車業界の事業環境について、前提となる事業環境についても教えてください。

A. 中古車市場については、例年になく 2024 年 2 月、3 月の中古車の販売実績が好調であったと思っている。従来は、年明けから段階的に右肩下がりというシーズンであるが、今年は右肩上がりとなり、若干従来とは違った市場の動きになっていると受け止めている。昨年の流れからオークション相場を見ても悪くないため、業界全体としては 2025 年 3 月期も堅調に推移するものと認識している。

・キャッシュ・アロケーションについて

Q. 既存の現預金を活用する予定はあるか。また、活用しないのであればその理由を教えてください。

A. 現時点で具体的な回答は控えさせていただきたい。現預金は場合によっては活用せざるを得ないと考えている。M&A も含めて活用する可能性について否定はしない。キャッシュフローの中でやりくりすると確定しているわけではないので、状況を踏まえ機動的に活用する可能性もある。

以上